

令和 5 年 5 月 31 日  
都市局市街地整備課

## 「第 25 回(2022 年)まちづくり・都市デザイン競技 (コンペ) 」 における「国土交通大臣賞」受賞作品の決定

まちづくり・都市デザイン競技（主催：まちづくり月間全国的行事実行委員会\*、（公財）都市づくりパブリックデザインセンター）は、毎年6月の「まちづくり月間」の関連表彰の1つとして、地域にふさわしい整備構想とまちのデザインについての提案を広く一般から募り、活力があり、また美しい景観を備えたまちづくりを実現することを目的として、平成10年度より毎年実施しているものです。

この度、審査委員会における審査を経て、第25回(2022年)の国土交通大臣賞が決定しましたので、お知らせいたします。

\*：令和4年度をもって解散

### 1 第25回(2022年)まちづくり・都市デザイン競技 (コンペ) 概要

#### ○ 競技対象地区

栃木県宇都宮市「宇都宮駅西口周辺地区」（約25ha）

#### ○ 競技課題

宇都宮市が目指す「子どもから高齢者まで、誰もが豊かで便利に安心して暮らすことができ、夢や希望がかなうまち『スーパースマートシティ』」の実現に向けて、以下の2点について10～20年後を見据えた提案を募集

- (1) 宇都宮の都市構造の成り立ちやエリアの特性、宇都宮駅西口周辺地区における課題の解消に配慮した、対象地区の将来像及びまちづくりのコンセプト
- (2) (1)の実現に向けて必要と考えられる機能の配置（行政・民間など）や、整備・活用のアイデア及び整備手法

### 2 国土交通大臣賞 受賞作品（1点）

○ 作品名 : ときめく宇都宮（作品の詳細は別添を参照）

○ 受賞者 : 石田 武／半澤 武夫／野島 僚子／前山 倫子／  
伊藤 航平／高橋 健／橋本 港 [大成建設 株式会社]

#### 【問い合わせ先】

<国土交通大臣賞に関する問い合わせ>

国土交通省都市局市街地整備課 渡辺、佐孝

代表:03-5253-8111(内線 32732, 32733) 直通: 03-5253-8412

<まちづくり・都市デザイン競技全般に関する問い合わせ>

(公財) 都市づくりパブリックデザインセンター 古木、樋口

直通: 03-6912-0799

# 第 25 回（2022 年）まちづくり・都市デザイン競技

## 1. 趣 旨

これからのまちづくりにおいては、そこに生活し活動していることの豊かさが実感でき、誇りのもてる優れた景観を備えた環境整備が重要になっています。現代の活動にふさわしい新たな都市景観の形成には、まちの歴史や環境に配慮しながら、その都市固有の品格を備え洗練された表現と演出が求められ、その魅力が都市に活力を呼び戻し、新たな賑わいを伴って、まち全体が活性化していくことが期待されます。こうしたまちづくりの課題を踏まえ、本「まちづくり・都市デザイン競技」は、地域にふさわしい整備構想とまちのデザインについての提案を広く一般から募り、まちづくりに対する国民の関心を高めるとともに、活力ある美しい景観を備えたまちづくりの実現に寄与することを目的として、平成 10 年度より毎年実施しているものです。

## 2. 競技対象地区

競技の対象地区は、全国公募に応募された候補地の中から、栃木県宇都宮市の玄関口として広域交通と域内交通の結節する交通の要衝に位置するとともに、政治・経済・文化の中心として発展してきた都心部地区への玄関口でもある「宇都宮駅西口周辺地区」（約 25ha）を選定しました。

## 3. 競技課題

宇都宮市が目指す「子どもから高齢者まで、誰もが豊かで便利に安心して暮らすことができ、夢や希望がかなうまち『スーパースマートシティ』」の実現に向けて、以下の 2 点について 10～20 年後を見据えた提案を求めました。

- (1) 宇都宮の都市構造の成り立ちやエリアの特性、宇都宮駅西口周辺地区における課題の解消に配慮した、対象地区の将来像及びまちづくりのコンセプト
- (2) (1) の実現に向けて必要と考えられる機能の配置（行政・民間など）や、整備・活用のアイデア及び整備手法

## 4. 応募作品数

競技へのエントリーが 64 グループあり、最終的に提出された応募作品数は 43 作品でした。

## 5. 主催・後援

- (1) 主 催 : まちづくり月間全国的行事実行委員会、(公財) 都市づくりパブリックデザインセンター
- (2) 後 援 : 国土交通省、宇都宮市

## 6. 競技実施経緯

- (1) 応募登録期間 : 令和 4 年 10 月 3 日 (月) ~ 令和 5 年 2 月 17 日 (金)
- (2) 作品提出締切 : 令和 5 年 3 月 3 日 (金)
- (3) 審 査 : 令和 5 年 3 月 14 日 (火)
- (4) 表 彰 : 令和 5 年 6 月

## 7. 審査委員

委員長	西村 幸夫	國學院大學教授、東京大学名誉教授
委員	石川 幹子	中央大学研究開発機構 機構教授、東京大学名誉教授
	伊藤 香織	東京理科大学教授
	岸井 隆幸	(公財) 都市づくりパブリックデザインセンター理事長、 (一財) 計量計画研究所代表理事
	高見 公雄	法政大学教授
	鎌田 秀一	国土交通省都市局市街地整備課長
	佐藤 栄一	宇都宮市長

(順不同)

## 8. 審査結果

審査の結果、次の通り各賞が選定されました。

### 国土交通大臣賞 (1点)

石田 武／半澤 武夫／野島 僚子／前山 倫子／伊藤 航平／高橋 健／橋本 港  
[大成建設株式会社]

### まちづくり・都市デザイン競技審査委員会賞 (1点)

河崎 篤史／上木 翔太／上杉 謙虎  
[株式会社三菱地所設計 都市開発マネジメント部]

### (公財) 都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞 (1点)

岡本 幸／田口 奈津子／所畑 隆洋／萩原 克典／田端 啓悟／佐藤 毅  
[株式会社プランテック]

### 奨励賞 (2点)

・景山 亮  
[株式会社日建設計 都市・社会基盤部門]

-----  
・九鬼 拓也／柴山 慶子／高橋 俊弥／西木 浩志／横田 直哉  
[新潟大学大学院 自然科学研究科 環境科学専攻 都市計画研究室]

### 宇都宮市長特別賞 (1点)

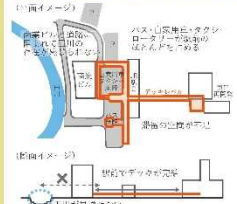
阿部 哲也／児玉 創／田中 宣安／山本 琢人／柳川 篤志／高岡 奈々恵／戸谷 百萌  
[中央復建コンサルタンツ株式会社]



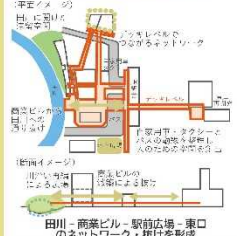
### JR 駅西口を “ときめきスクエア” △

交通空間が拡大し街の魅力が見つけやすくなった西口を、抜ける空間やアツキネットワーク整備により、ときめきが生まれる場所に再編。

【現状】車のための空間から転換が必要(再イメージ)



### 【提案】ときめきが生まれる駅前へ



### 田川パーク 緑の安らぎと川辺のアクティビティのときめき

川辺空間の再編により川と街の関係性を再構築。宇都宮の自然豊かなときめきを生み出すオープンスペース「田川パーク」を創出



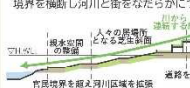
### ○川と街との関係をつくる

駅西口の骨格である田川を表の空間とするため、河川・道路・民地の境界をまたぎ再編。川に対して開けた空間を生み出す。

【現状断面】切り立った崖で田川との関係が希薄



【提案断面】境界を横断し河川と街をならかにつなげる



### ○川辺の居場所づくり

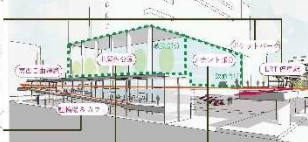


### 駅前広場 まちに一步踏み出す期待ふくらむときめき

既存商業ビルを活かした空間の抜けにより駅に降り立つ人々に新たなときめきを多様なモビリティが安全に行きかう 交通結節機能と滞留空間を融合させた広場

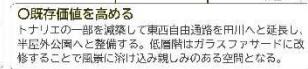
### ○街の新たな玄関口

駅前広場には新たに LRT の停車駅を設置し、センターコアへの玄関口へ。スローモビリティや人が行きかう広い空間とポケットパークを設けることにより、人々の集うオープンスペースとなる。



### ○街と観光客の接点を創る

再開発エリアに発着場カフェを併設する。スロープによって LRT 乗り場への移動をスムーズにし、出発の準備をする拠点となる。



### ○既存価値を高める

トナリエの一部を再編して東西自由道路を田川へと延長し、半円外公園へと整備する。低層階はガラスファードに改修することで風景に溶け込み親しみのある空間となる。



駅前から田川への抜けを軸にデッキレベルで各エリアにつながっていく



### ときめきラボ 交流からビジネスが生まれる場



【凡例】  
→ ときめきメイン軸  
→ デッキレベル 歩行者・スローモビリティ動線  
→ 地上～デッキをつなぐ動線  
→ 地上レベル 歩行者・スローモビリティ動線  
→ 自転車動線  
→ 川辺の動線  
★ 宇都宮のときめき

### 上河原 ウェルビーイングエリア



○道路空間のときめき

○パーク化によるときめき

モビリティにより道路空間の潜在性や歩行者の利便性を向上。ネットワーク型コンパクトシティ (KC) のいち拠点として、多世代が交流できる生活のときめきが生じる。

パークまわりでは個人単位での活動が可能となる。駅前のにぎやかさは異なり、個人のウェルビーイングが高まる、小さな活動のときめきが生じる。

### タウンステイエリア

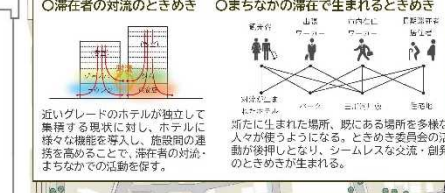


○道路空間のときめき

○まちなかの潜在で生まれるときめき

近いグレードのホテルが独立して集積する現状に対し、ホテルに様々な機能を導入し、施設間の連携を高めることで、来客者の対峙、まちなかでの活動を促す。

### 西口南 タウンステイエリア



○道路空間のときめき

○まちなかの潜在で生まれるときめき

近いグレードのホテルが独立して集積する現状に対し、ホテルに様々な機能を導入し、施設間の連携を高めることで、来客者の対峙、まちなかでの活動を促す。

### ときめきの景観づくり

各エリアのときめきへ誘う通り抜けのビュー

デッキ上を歩いていると気持ちよく視線が抜け、楽しそうな場所が目に入る。動線に合わせ視界が開ける場所やアイストップとなる建物を計画することで、ときめきを生む風景をつくる。



JR 駅前から街を見通す トナリエ前からときめきラボへ 田川パークからときめきラボへ

### 周辺とつながるネットワーク



デッキレベルで JR 駅の西口と東口をつなげ歩行者とスローモビリティが通行するネットワークを形成。建物バルコニーを活かした緑化により田川と街の緑がつながる。

歩いて気持ちよく、いろいろな場所に訪れてみたくときめきの景観を維持するため、視点線を設定してのビューのコントロールや緑が目に入る景観づくりを続けていく。

デッキレベルで連続し、西口・駅・東口が一体になり、歩行者とスローモビリティが行き交う

LRT 停車場を中心に乗り換え空間

ときめきスクエア-東口 断面図 1/2500